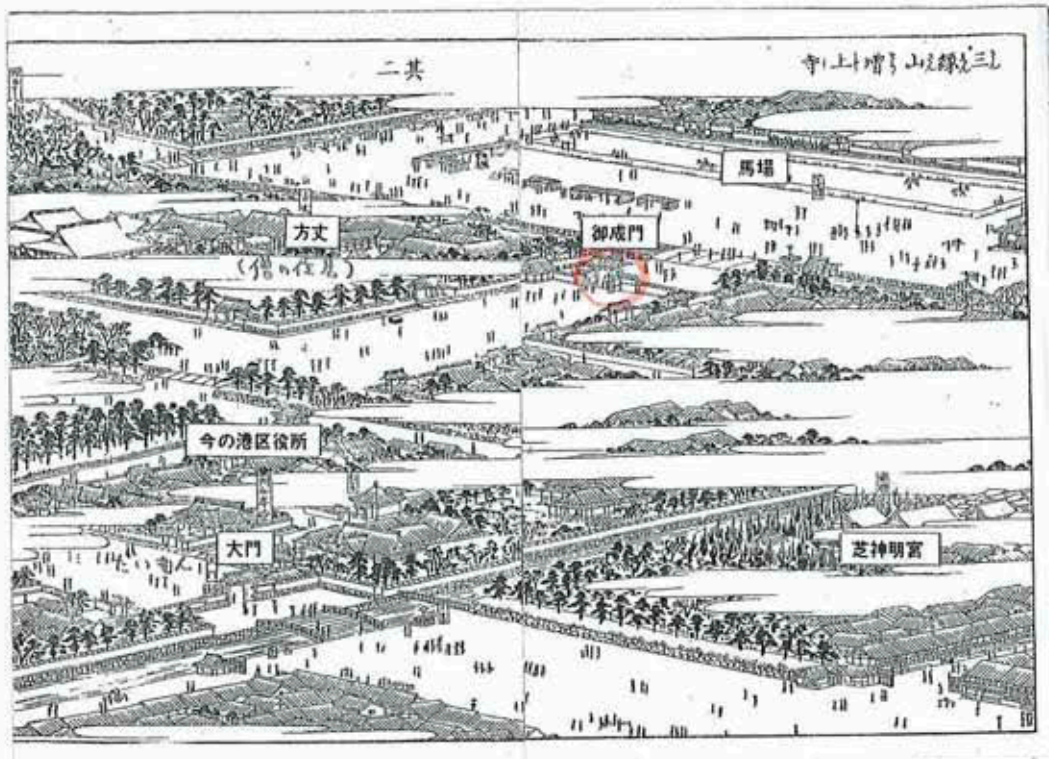


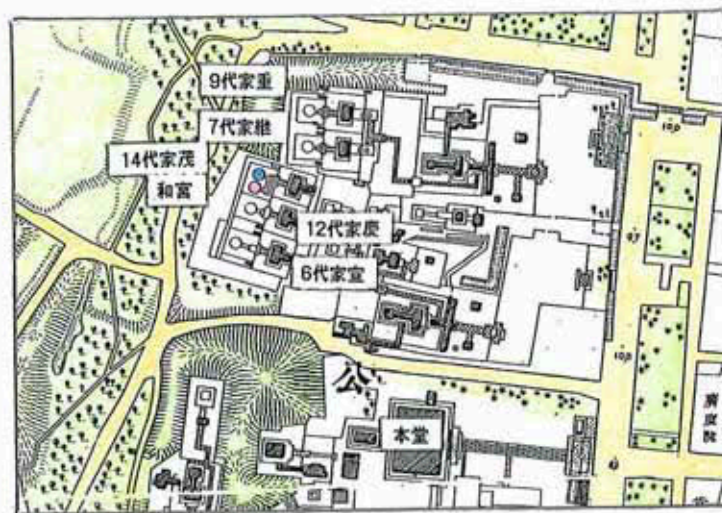
上野寛永寺と並ぶ徳川家の菩提寺。6人の将軍を祀る。浄土宗。



上の広場には馬場が描かれている。その下の門は「御成門」で将軍が江戸城から参拝する時の専用門。地下鉄の駅名にある。



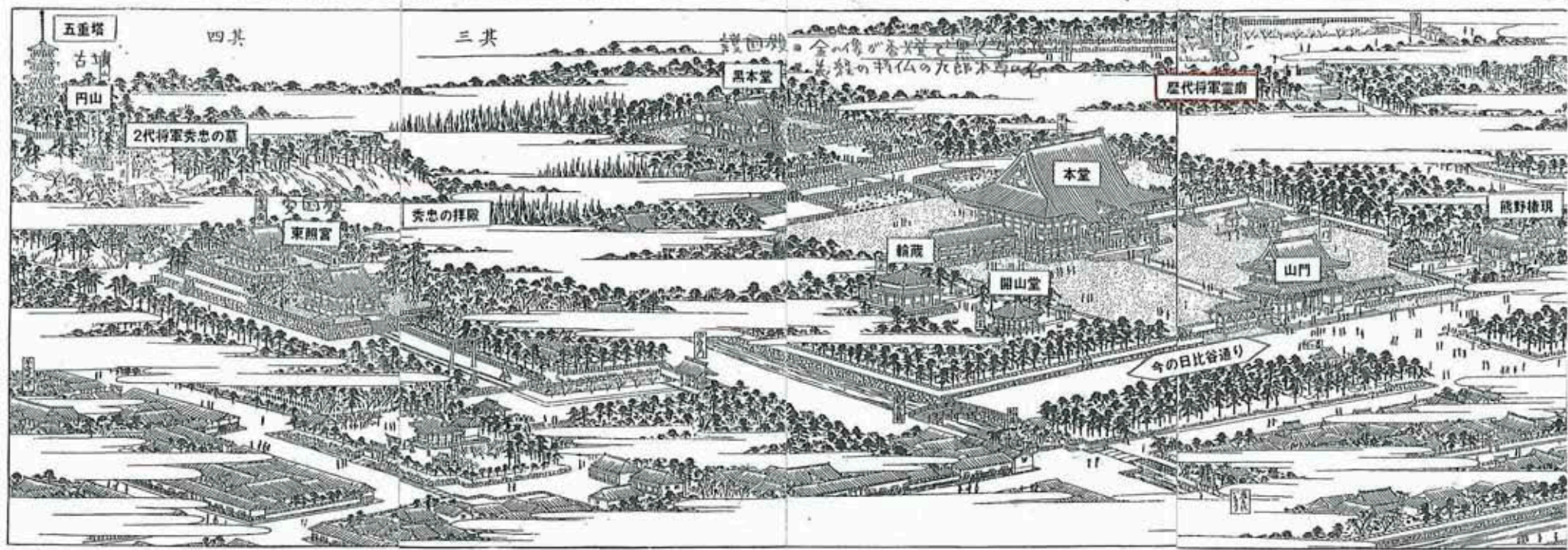
現在の本堂は戦災で焼失、昭和49年再建されたもの。



戦災前の歴代将軍の霊廟。今の東京プリンスホテルの所。明治20年頃の様子。



江戸時代の増上寺の範囲。25万坪あった。



正式名は三縁山広度院増上寺という。元の名は光明寺といい慶長3年（1598）現在の地へ移った。室町時代前期の明德4年（1393）の創建で元は貝塚村（紀尾井町の喰違見附の辺）にあり、家康が入国した天正18年（1590）8月1日未下刻（午後2時すぎ）休憩した寺。『天正日記』

歴代将軍の2代秀忠・6代家宣・7代家継・9代家重・12代家慶・14代家茂と和宮の6人を祀る。家康を祀る東照宮は元和2年（1616）の創建。



戦災前の歴代将軍の左側の霊廟の入口門。



戦災後霊廟は全てここへ移された。この門は焼失をまぬがれた6代家宣の宝塔前の中門で貴重な門。

「東海道の江戸の玄関口で、ここで旅人の送迎をした」

史跡
高輪大木戸跡

高輪大木戸は、江戸時代中期の宝永七年（一七一〇）に芝口門にたてられたのが起源である。享保九年（一七二四）に現在地に移された。現在地の築造年には宝永七年説・寛政四年（一七九二）など諸説がある。江戸の南の入口として、道幅約六間（約十メートル）の旧東海道の両側に石垣を築き夜は閉めて通行禁止し、治安の維持と交通規制の機能を持っていた。

天保二年（一八三二）には、札の辻（現在の港区芝五の二九の十六）から高札場も移された。この高札場は、日本橋南詰・常盤橋外、浅草橋内・葛田橋内・半蔵門外などにも江戸の六大高札場の一つであった。

水登り、船下り、伊勢参りの旅人の送迎もここで行われ、付近に茶屋などもあって、当時は品川筋にいたる海岸の景色もよく月見の名所でもあった。

江戸時代後期には木戸の役目は廃止され、現在は、海岸側に幅五・四メートル、長さ七・三メートル、高さ三・六メートルの石垣のみが残されている。

四谷大木戸は既にその痕跡を止めていないので、東京に残された、数少ない江戸時代の産業交通土木に関する史跡として重要である。常設展「大木戸を語る天然記念物保存法」により門番舎（後文部省所蔵）から移定された。

平成五年三月二日 建設

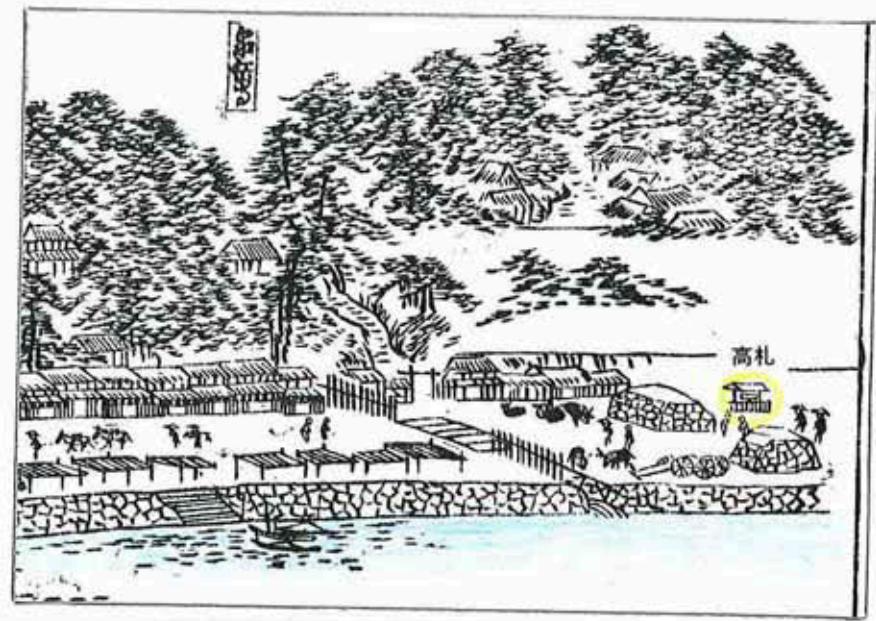
東京都教育委員会

文化財を大切にしましょう

設置されてる説明板



江戸から来ると海側の左半分が残っている。享保9年（1724）芝口門から移されたとある。当初は門があった。



『東海道名所図会』にある大木戸の石垣。

高輪大木戸

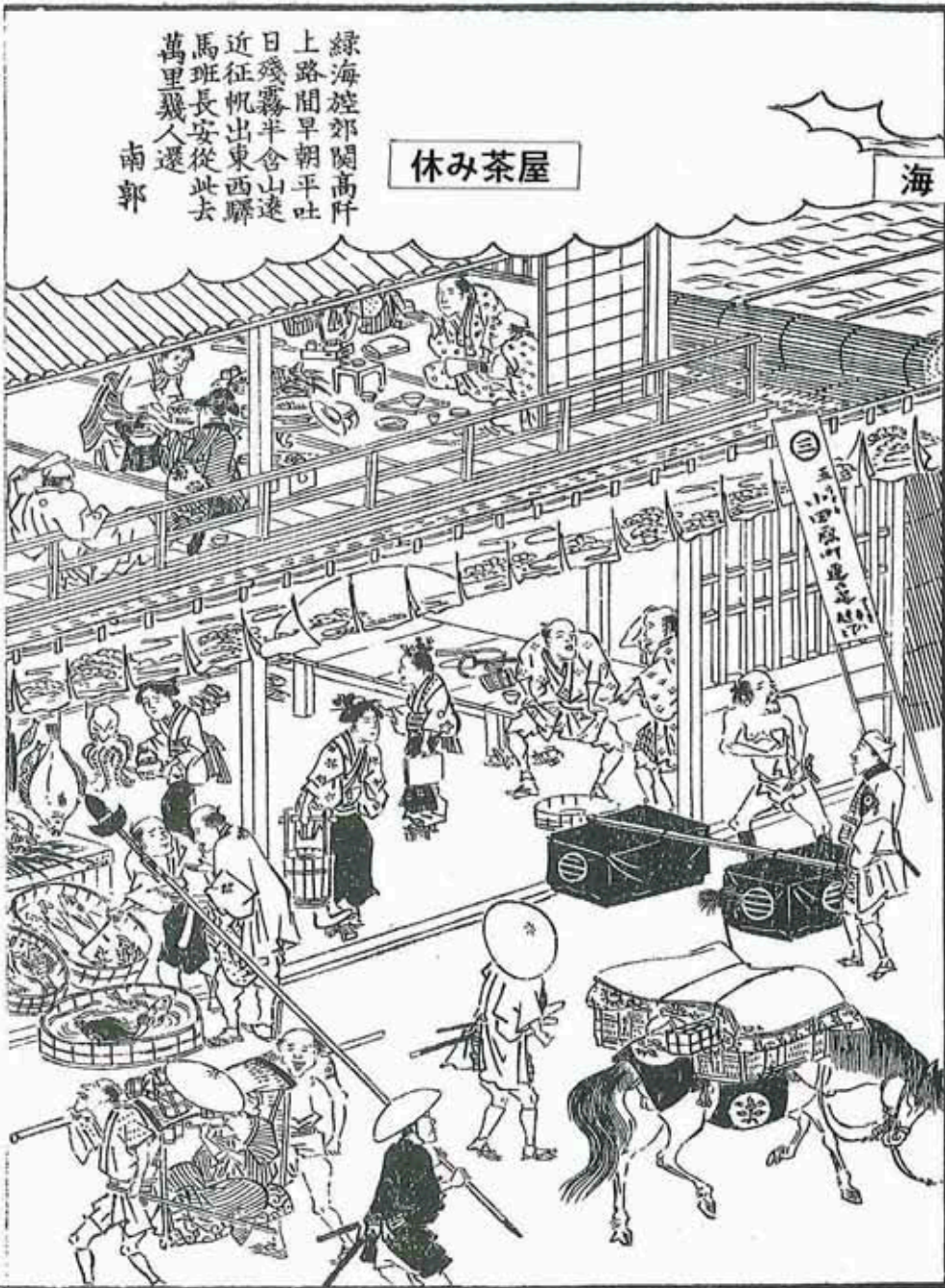
旅に出る人、見送る人の様子や

賑わいの様子が描かれている。

高輪大木戸 寶永七年庚寅、新に海道の左右に石垣を築かせられ、高札場となし給ふ。其初は同所田町四丁に、今も彼地を元札の辻と唱ふ。此地は江戸の喉口なればなり。田町より品川迄の間にして、海岸なり。

休み茶屋

海

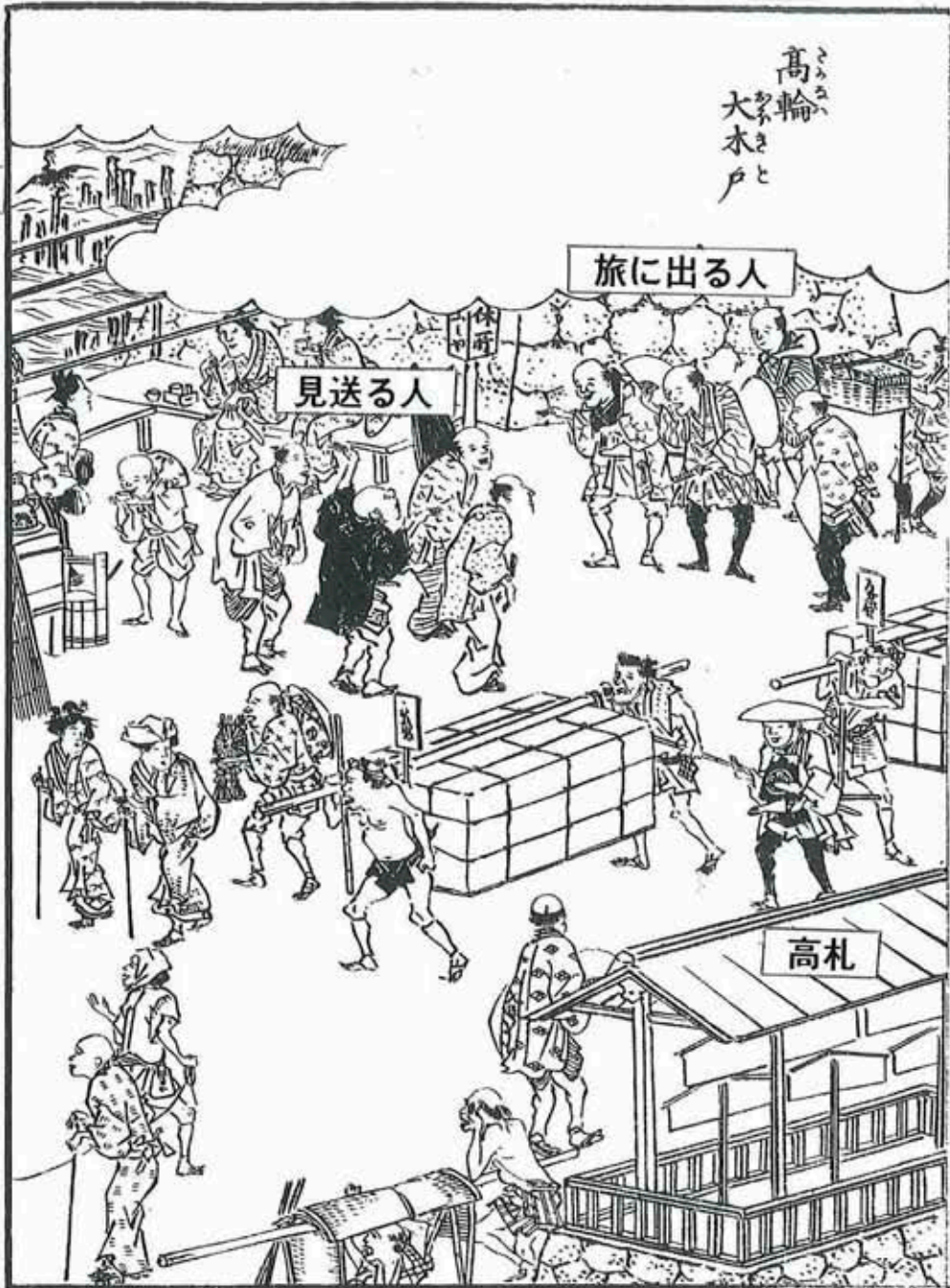


高輪大木戸

旅に出る人

見送る人

高札





討ち入りを果たし主君に報告したあと帰る所。

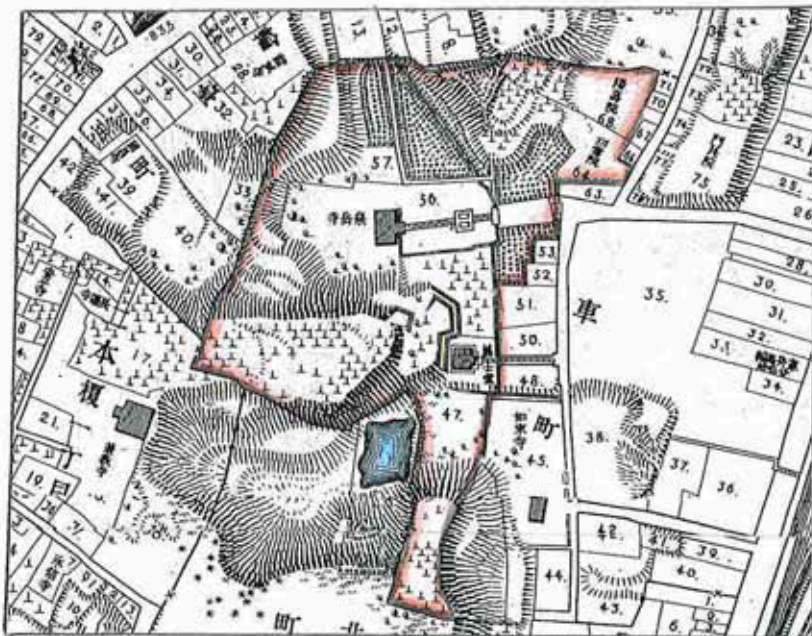
討ち入りの翌年、元禄16年(1703)2月4日切腹した大石良雄ら四十七士の内46人の墓と主君浅野長矩の墓がある。



安政年間(1854~1860)の頃の泉岳寺



両国の吉良邸からパレードで歩いて来た四十七士が
今まさに泉岳寺に入って来た所。午後3時。



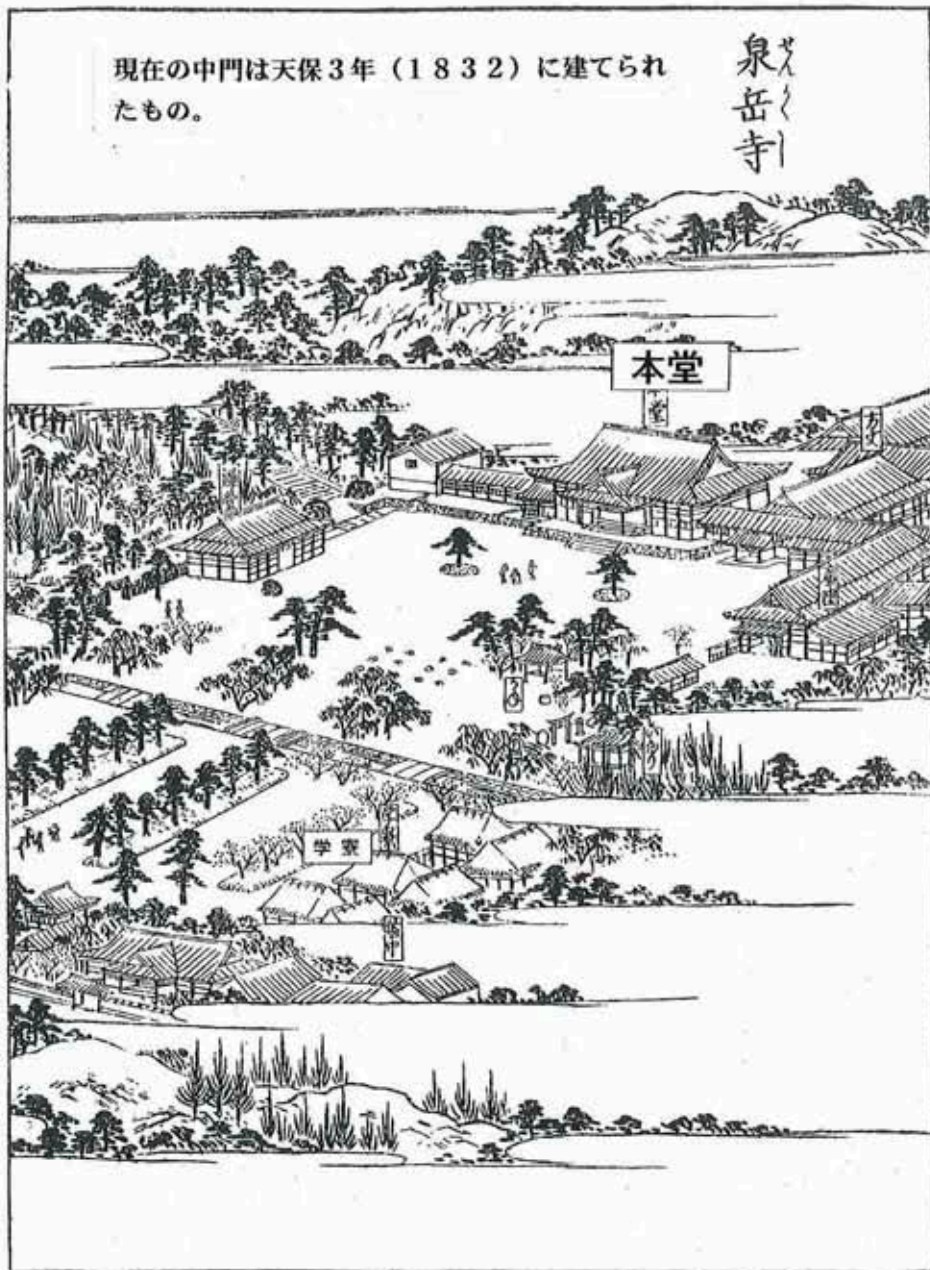
明治20年頃の泉岳寺。

泉岳寺

赤穂浪士の話の前は「それまではただの寺なり泉岳寺」と川柳に詠まれていた寺。現在も都内の名所となっている。

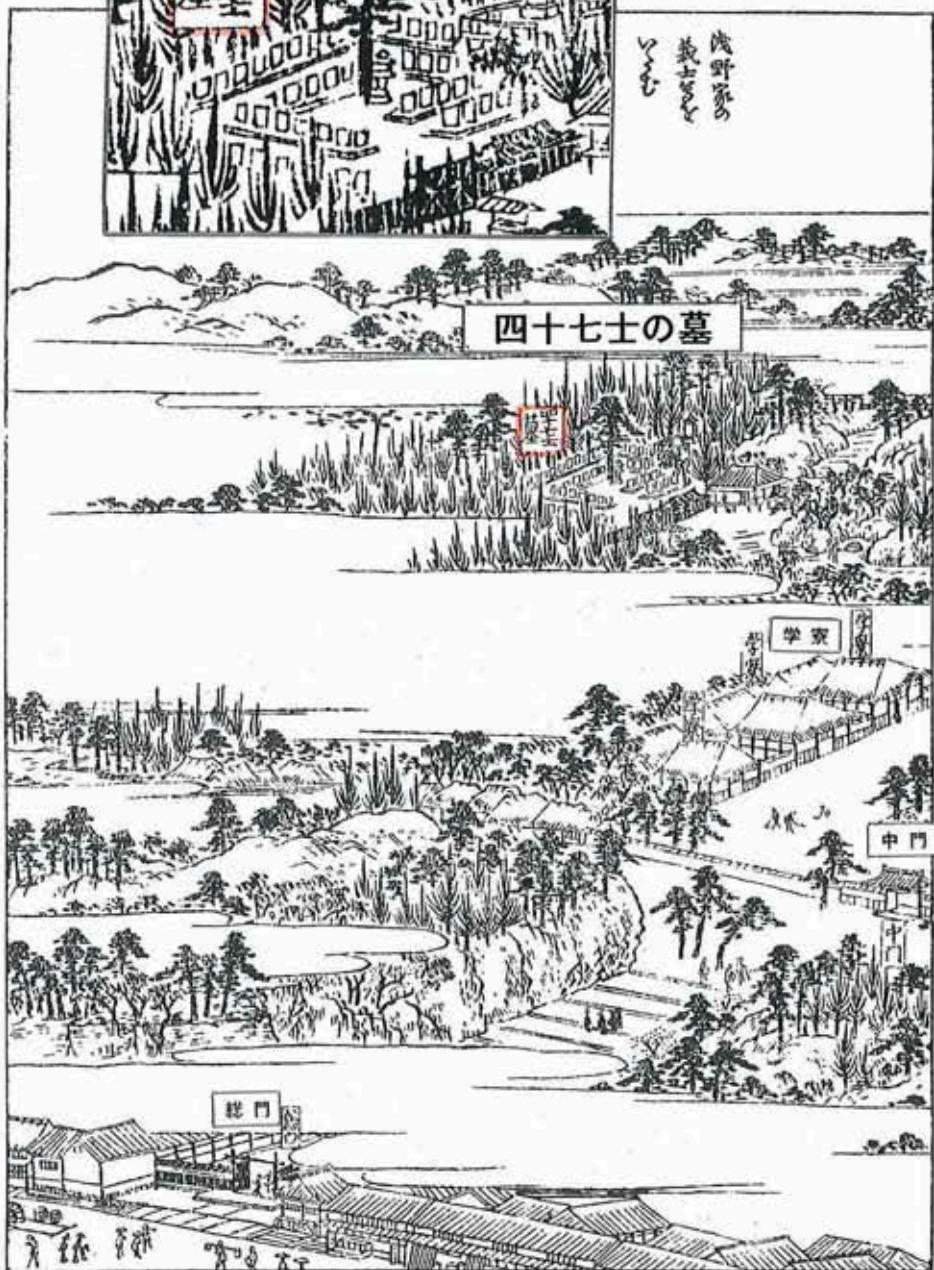
泉岳寺

現在の中門は天保3年（1832）に建てられたもの。



浅野家の
義士墓

四十七士の墓



萬松山泉岳寺

外櫻田の地に創建する所の禪刹なり。曹洞宗。

後寛永十八年辛巳再命ありて、寺を今の地に移したりといふ。

浅野内匠頭長矩及び義士四十七人の石塔あり

《新宿区》

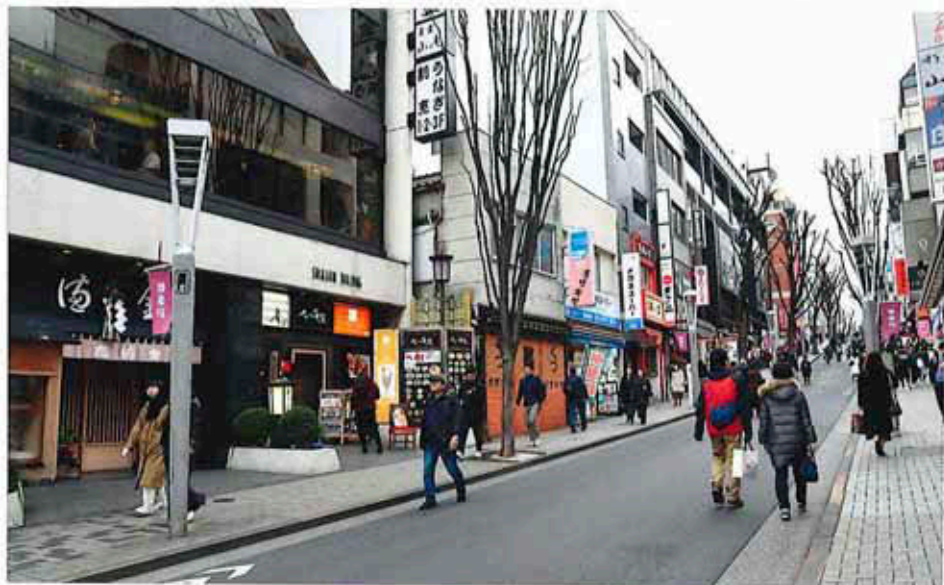
27 神楽坂

新宿区神楽坂一〜六丁目

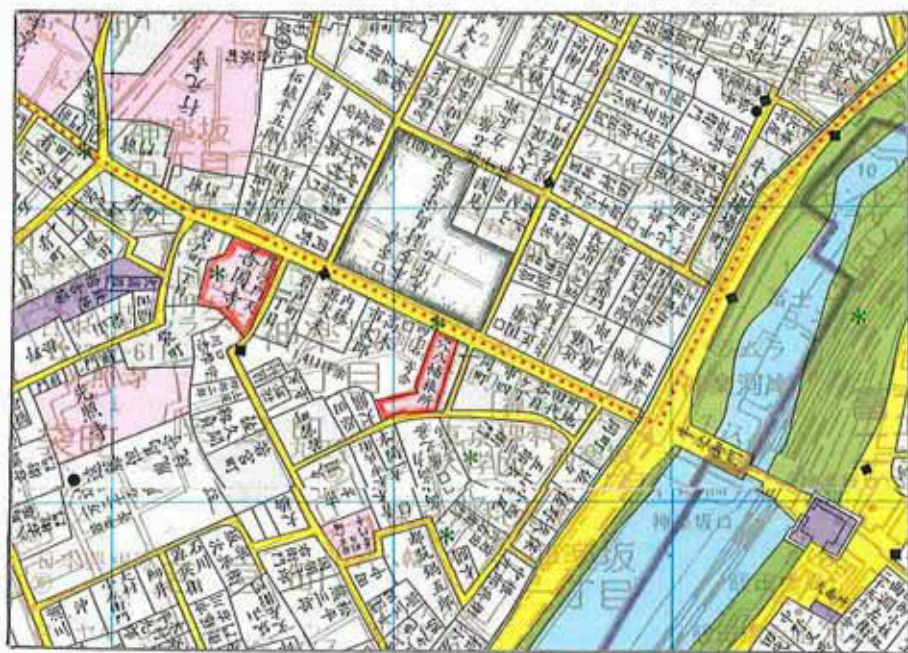
Ⅱ路地裏に花街の名残りを残す坂の街Ⅱ



善国寺は寛政4年（1792）馬喰町から移った。本尊の毘沙門天は加藤清政の持っていた守り神という。日蓮宗。



神楽坂通りには今でも江戸の頃から続いている店が数軒ある。細い路地を入ると料亭があり花柳界の様子が残る。昔は坂は階段状になっていた。



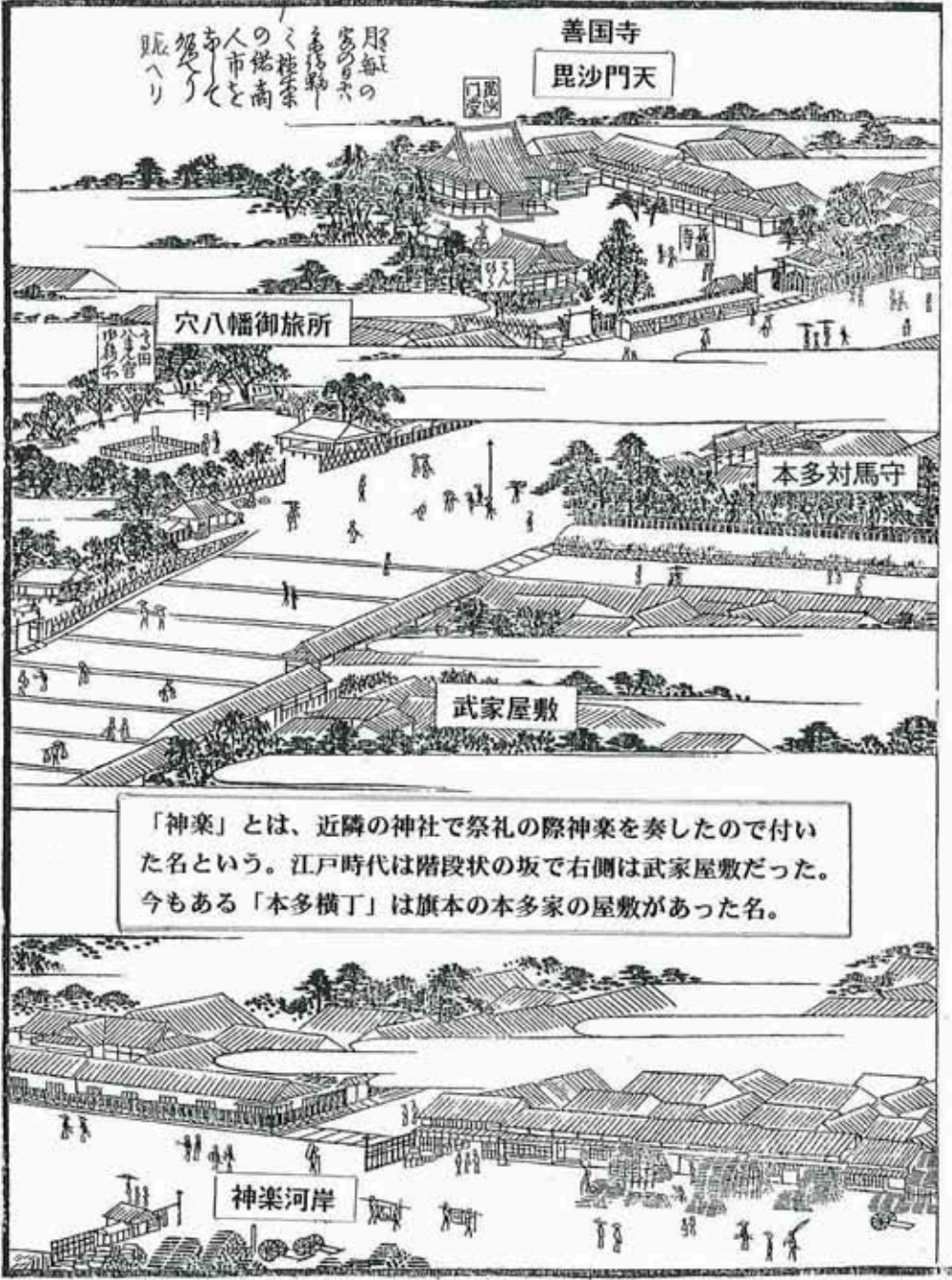
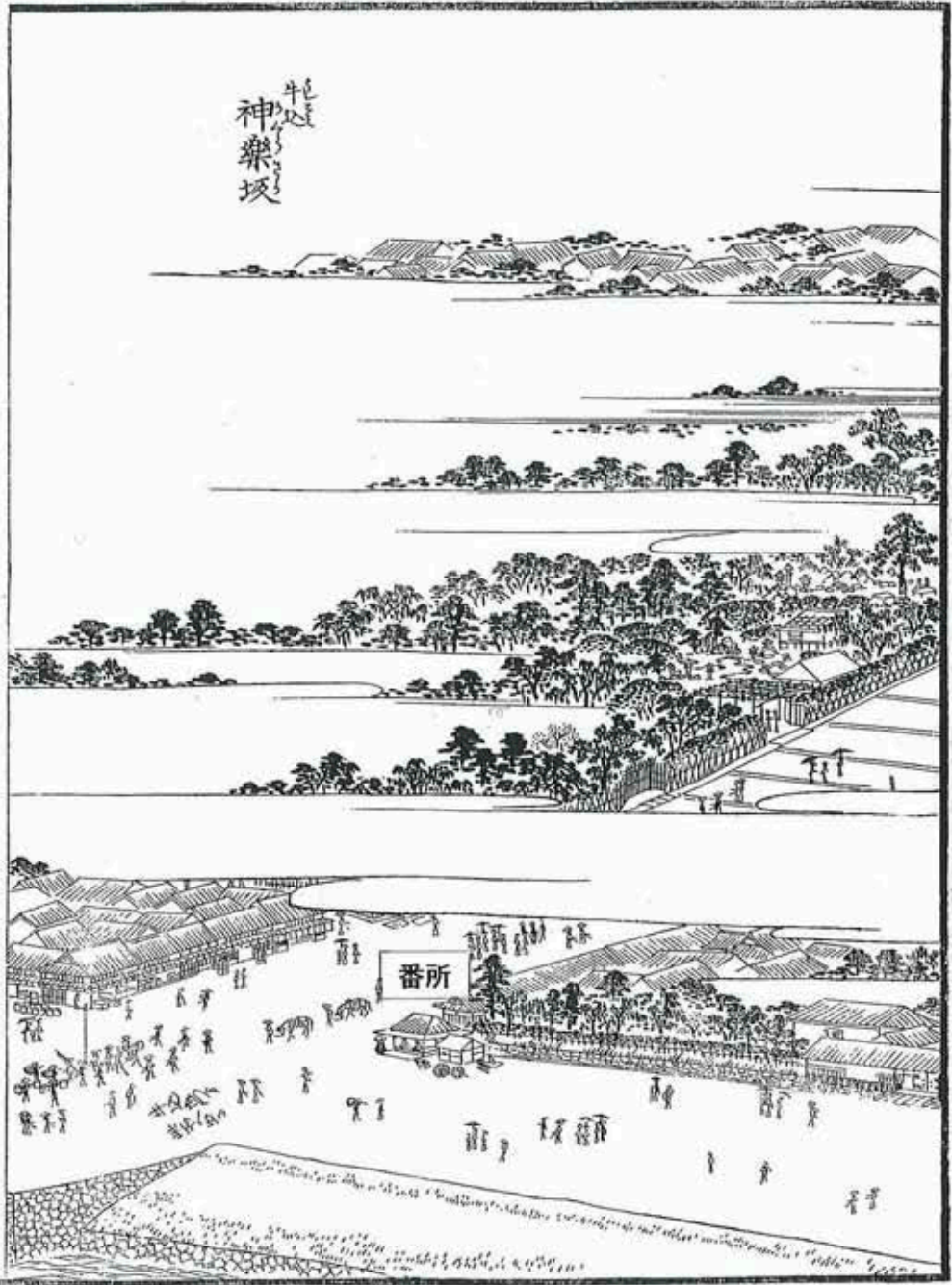
安政年間（1854～1860）の頃の江戸図



神楽坂

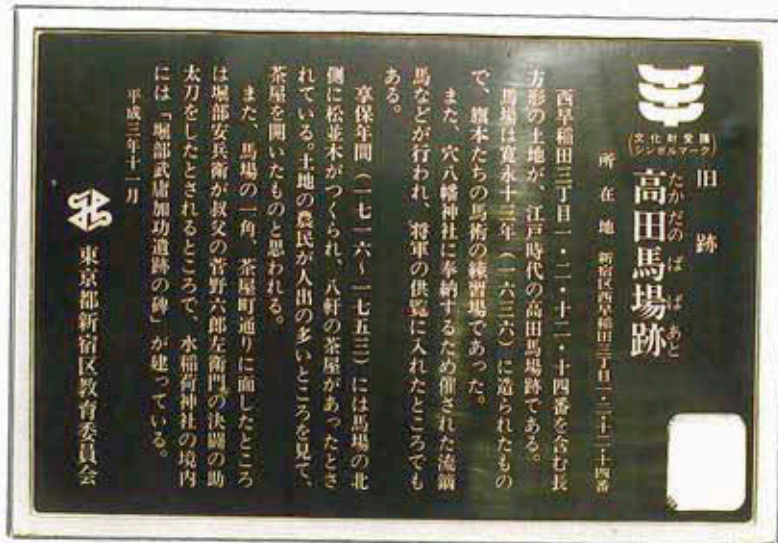
「月毎の寅の日には参詣多しく
植木等の諸商人市をなして賑へり」とある。

神楽坂 同所半込の御門より外の坂をいへり。坂の半腹右側に、高田穴八幡の旅所あり。祭禮の時は、神輿此所に渡らせらる。其時神樂を奏する故に、此號ありといふ。



「神楽」とは、近隣の神社で祭礼の際神樂を奏したので付いた名という。江戸時代は階段状の坂で右側は武家屋敷だった。今もある「本多横丁」は旗本の本多家の屋敷があった名。

江戸初期に造られた旗本達の馬術の練習場



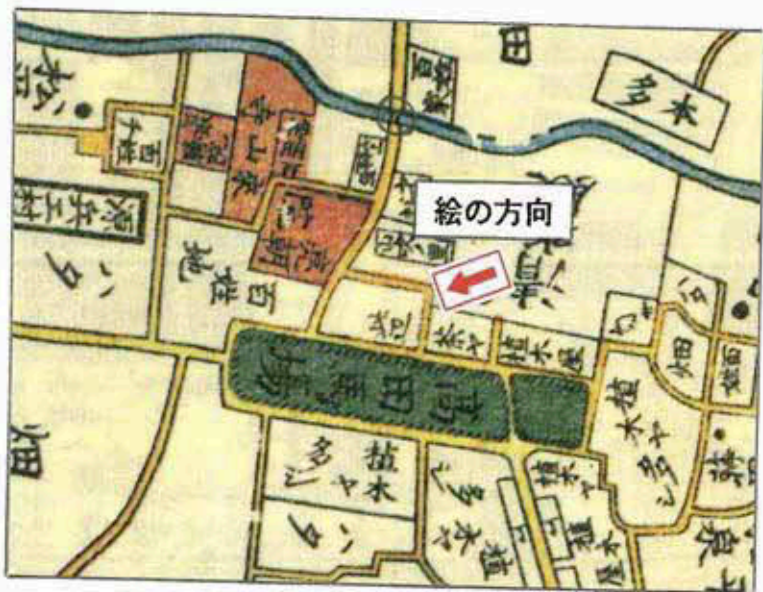
東側に説明板が設置されている。



今の早稲田通りに面していた。左が高田馬場駅方面。



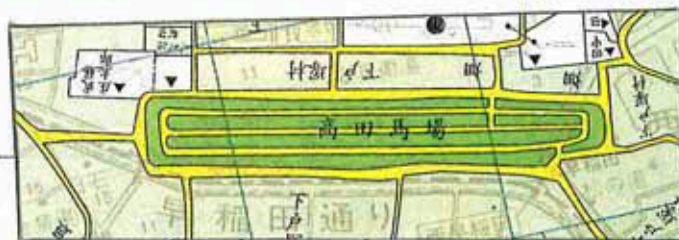
絵と同じ方向の東側から高田馬場駅方面を見る。右側に8軒の茶屋があったのでここを茶屋町通りといった。



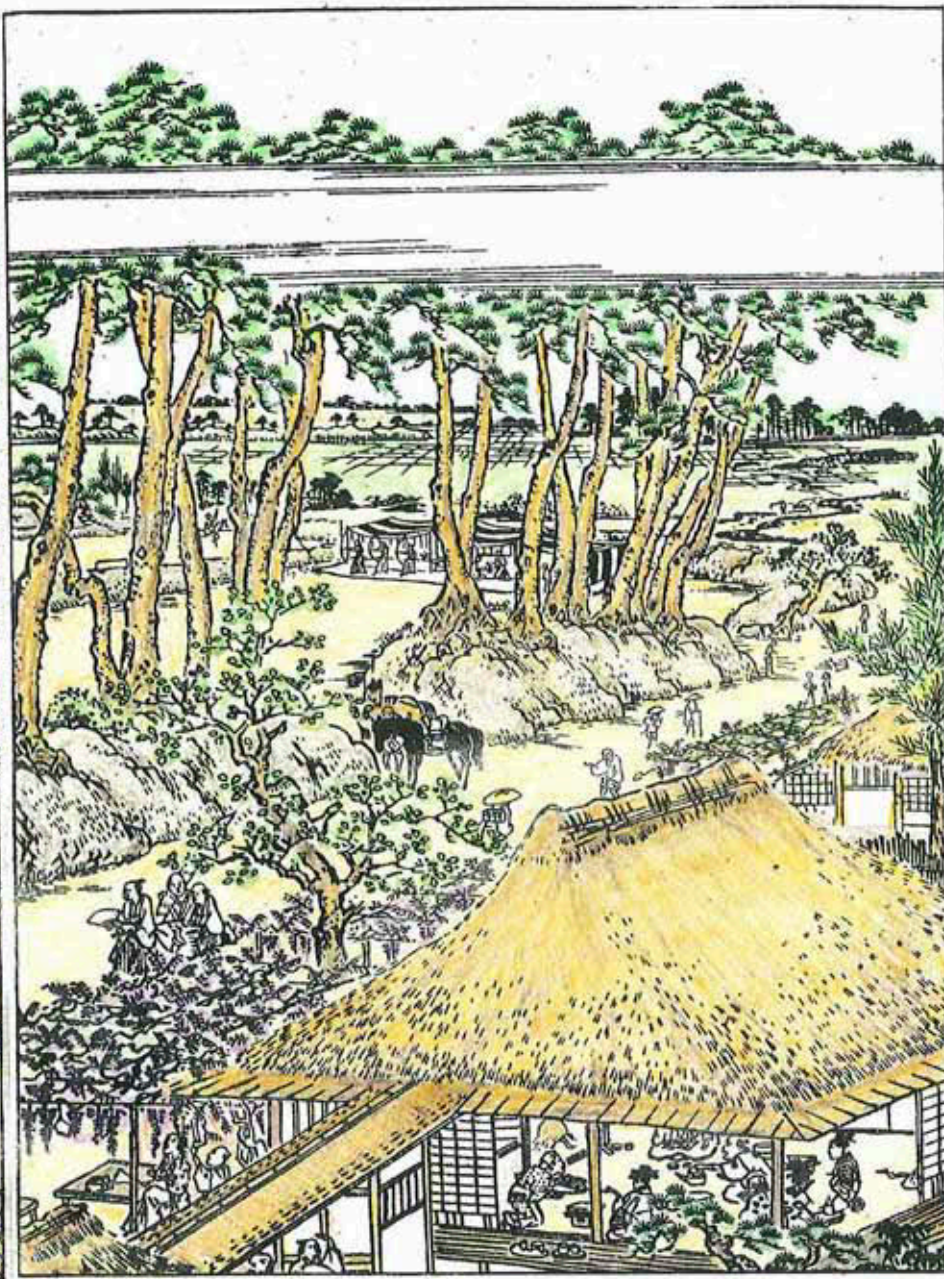
安政6年（1859）の『分間江戸大絵図』で「此辺茶や」と書いてある。回りには植木屋が多かった。上の川は神田川の面影橋。

高田馬場

馬場は寛永13年(1636)造られた旗本達の馬術の練習場。茶屋の前の道は雑司ヶ谷の鬼子母神への道で、茶屋で休んで馬の練習を眺めたりした。



長さ6町(654m)幅30間(約54m)あり、2本の走路があった。



高田馬場 同じ北の方にあり。追廻と稱して二筋あり。縦は東西へ六町に、横の幅は南北へ三十餘間あり。相傳ふ、昔右大將頼朝卿、隅田川より此地に至り、軍の勢揃ありし舊跡なりといへり。

尾張徳川家の下屋敷があった所で、趣向をこらした名庭園があった。



現在の「箱根山」を下から見る。池を掘ったあとの土で築いた人工の山で、標高は44.6mある。



表門があった所。奥の道を箱根山通りという。



屋敷の範囲。東西で約900mあり、広さは13万6千坪ある。

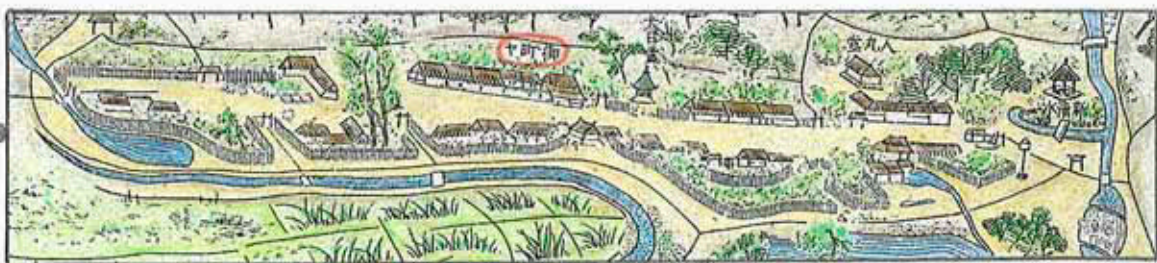
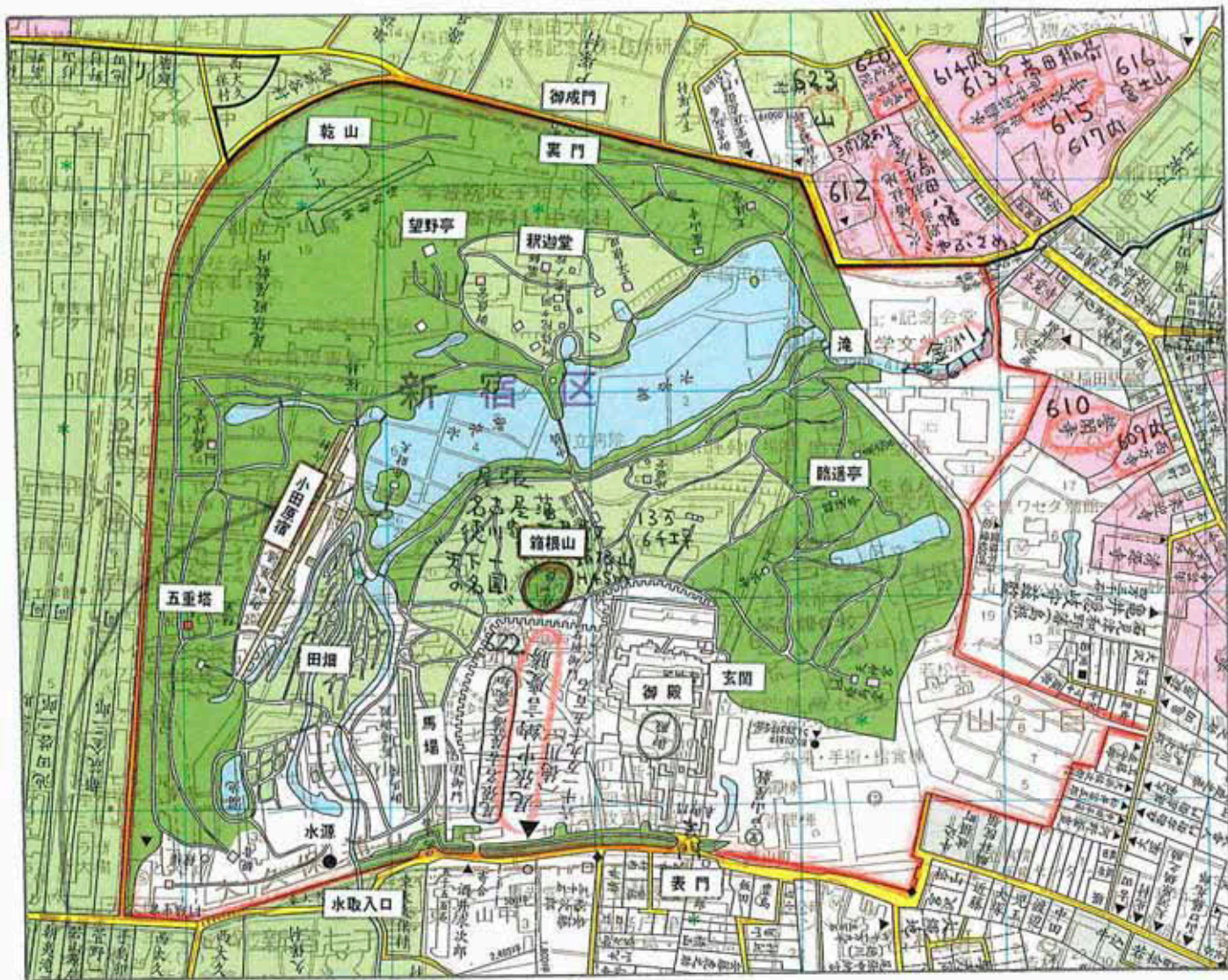
贅を極めた大名庭園で庭内には多くの施設があった。



今も池の名残りが西側に残っている。

《戸山公園の歴史》

- ◎ 中世の鎌倉時代の頃、和田村と戸山村があり江戸氏の配下の和田義盛がここを領していたという。
- ◎ 江戸時代前期の寛文十一年（一六七二）尾張徳川家二代光友がここを将軍家から下屋敷として拝領した。
- ◎ 明治7年陸軍戸山学校となる。
- ◎ 昭和24年都営戸山ハイツが一千戸も建てられた。
- ◎ 現在は都立戸山公園になっている。



東海道の小田原宿が36軒も再現されている。

和田戸山 尾陽君御館の地なり。是を戸山御邸と云ふ。戸山或は外山に作る。土人相傳ふ、此地は往昔和田戸何某とかやいひし武士の住みし所にして、右大將頼朝卿隅田川より、此地に至り、和田戸が第に入り給ひ、軍勢の勢を休められしことありしといへり。

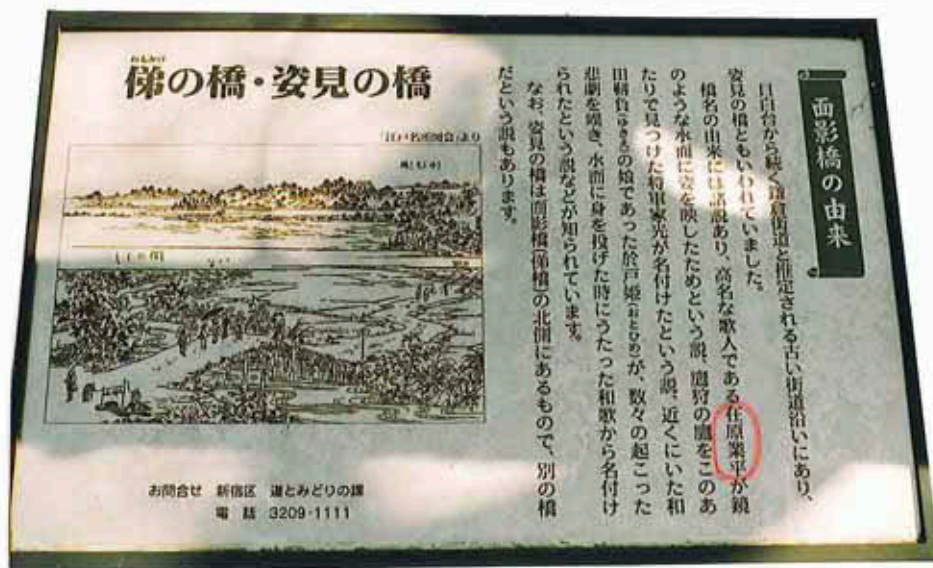
平安時代前期の在原業平伝説のある古い橋



広重『名所江戸百景』



神田川に架かる橋の中でも江戸時代以前からあった橋で、由来にも「在原業平(825~880)が水面に自分の姿を映した」とあるので平安時代前期にはすでに架かっていたのかもしれない。



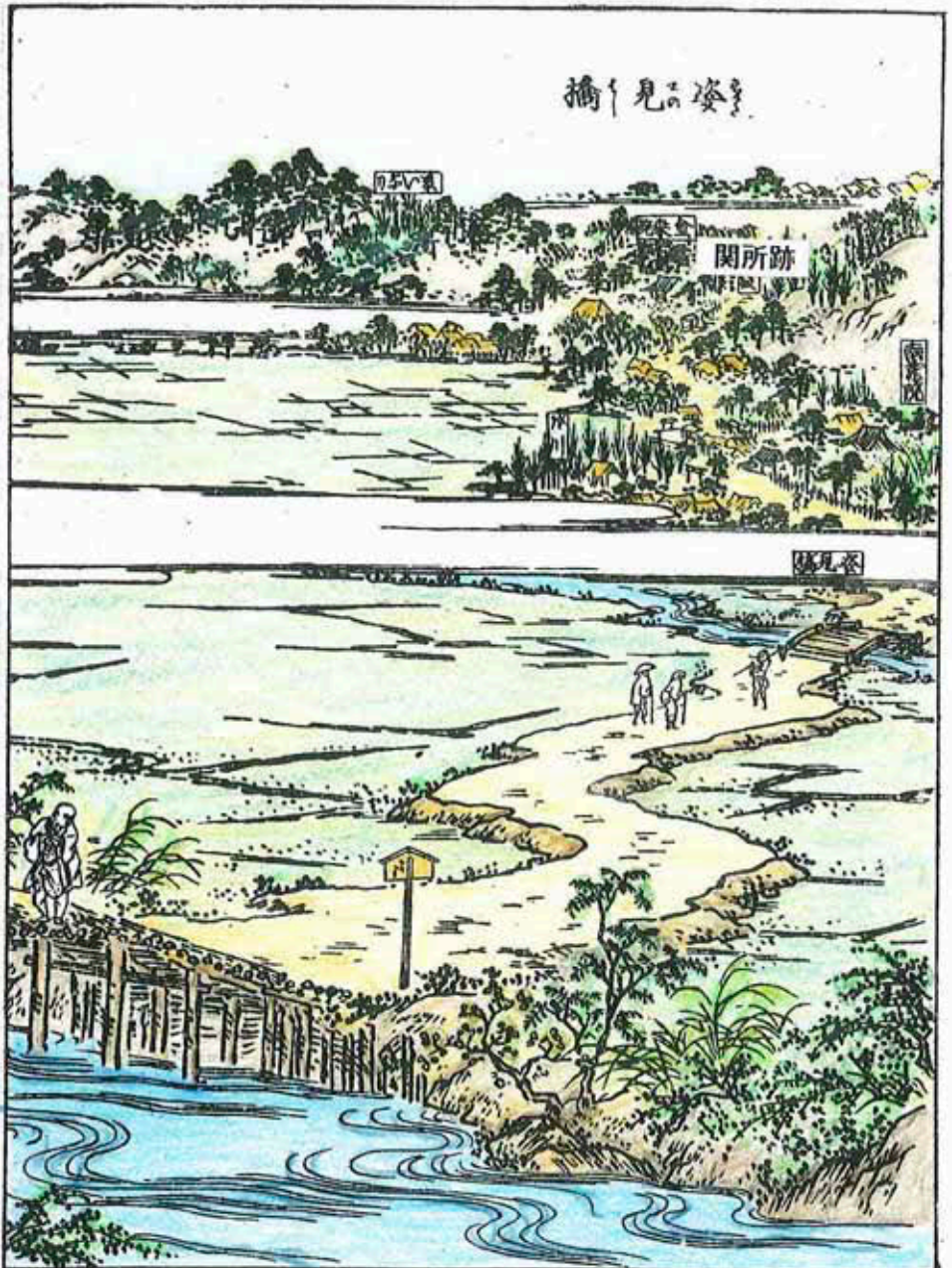
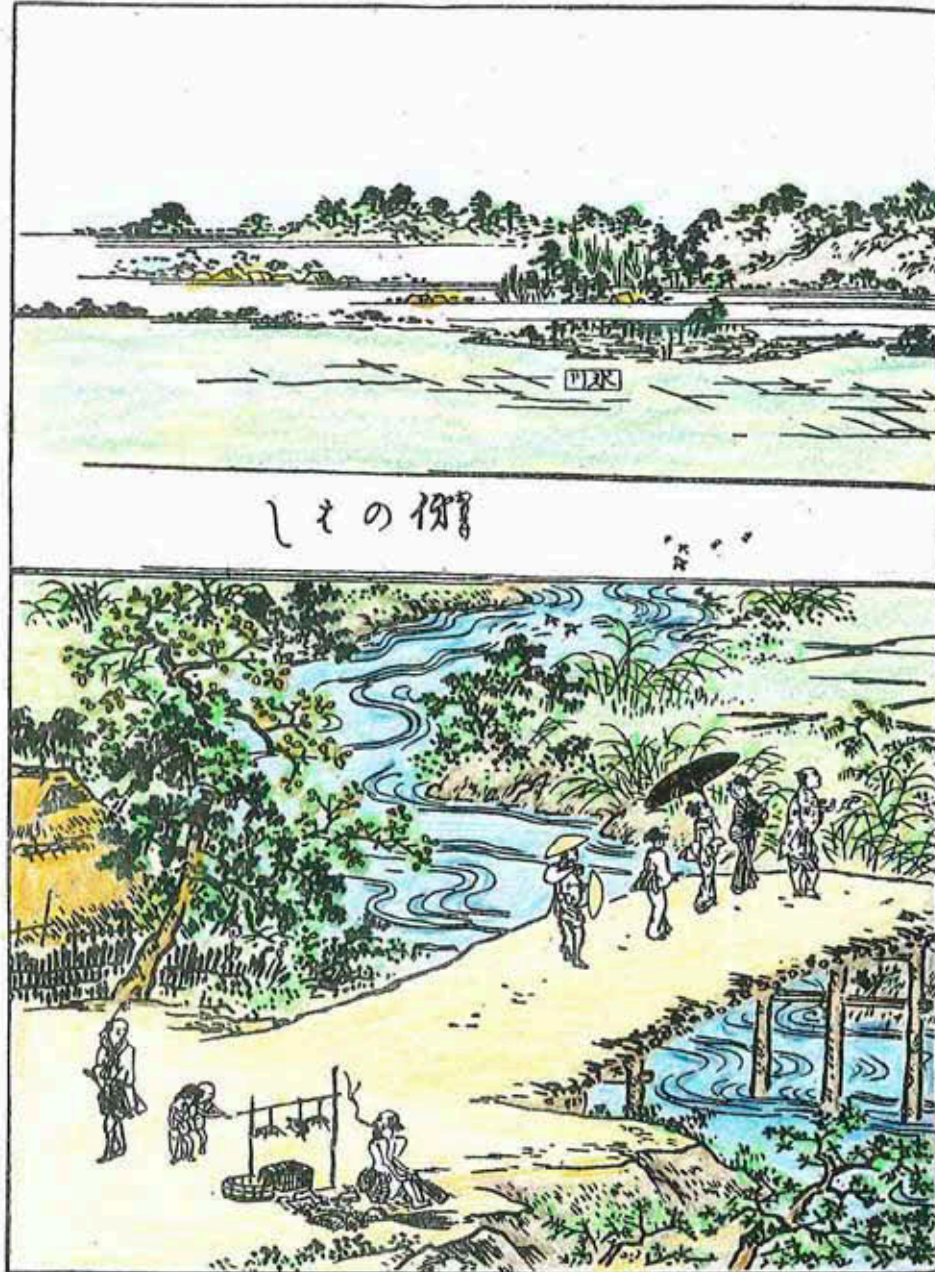
橋のわきにある説明板。

面影橋

この橋の道は古い鎌倉街道とも古奥州街道ともいわれ
手前の道は千駄ヶ谷の鳩森八幡宮の所から来て、この
橋を渡り遠く奥州まで続いていた古い街道だった。

姿見の橋 同じく北の方に架せる小橋を號く。

佛の橋 同じ北の方、上水川に架す。長さ十二間餘あり。昔は板橋なりしが、近頃は土橋となれり。



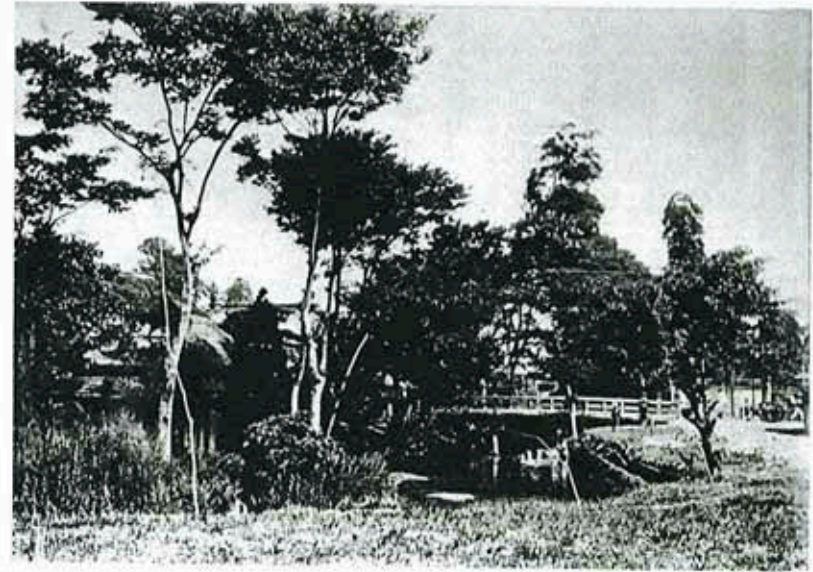
江戸名所圖會 卷四

生きものを買って飼うのではなく放してやる
と功德があるという信仰で“放生”という。

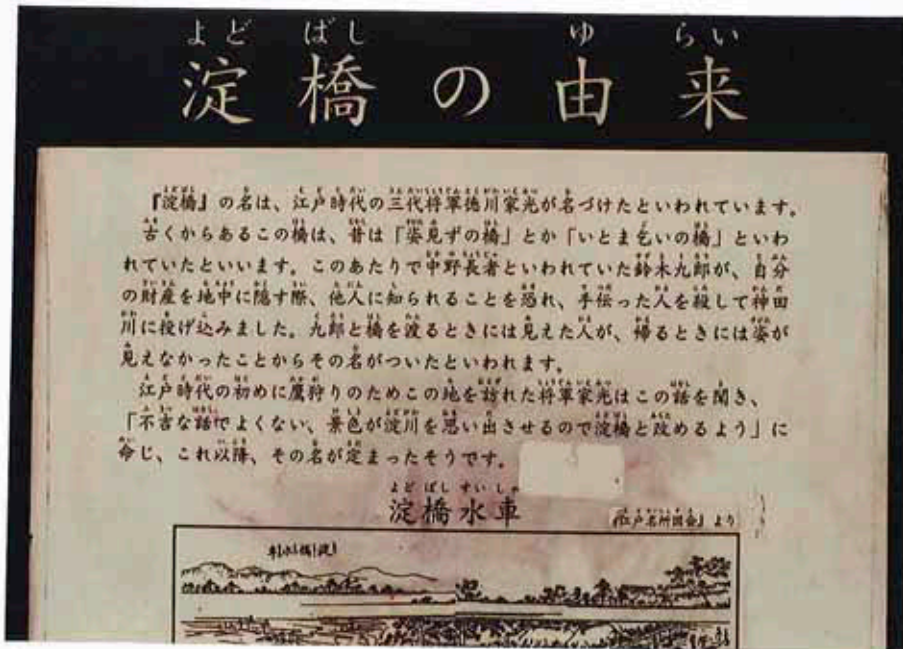
青梅街道の神田川に架かる橋Ⅱ



絵と同じ方向から見た写真。右が中野坂上。



明治40年頃の淀橋



三代将軍家光が大坂の淀川に似ているので「淀橋」と名付けたという。

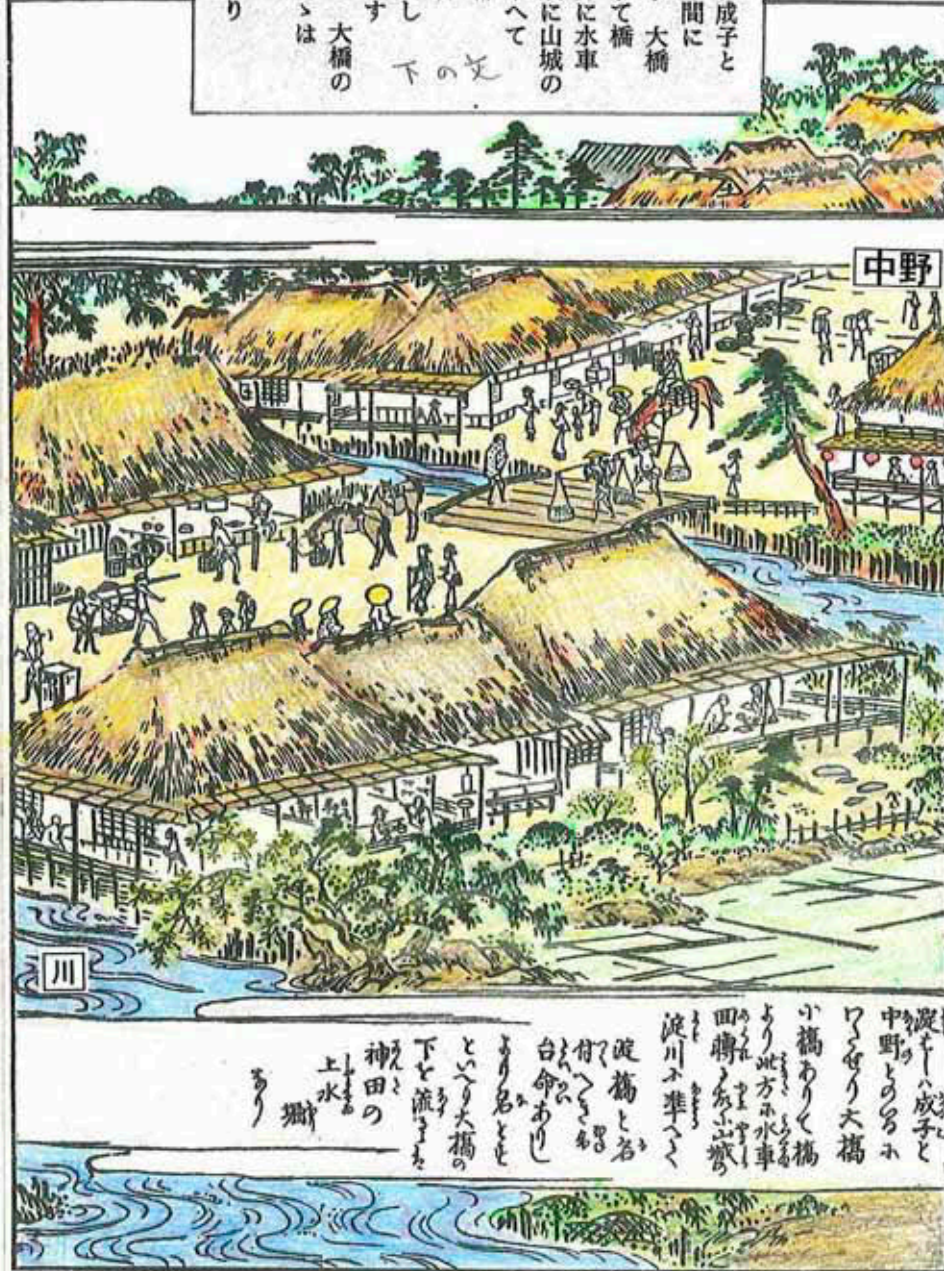
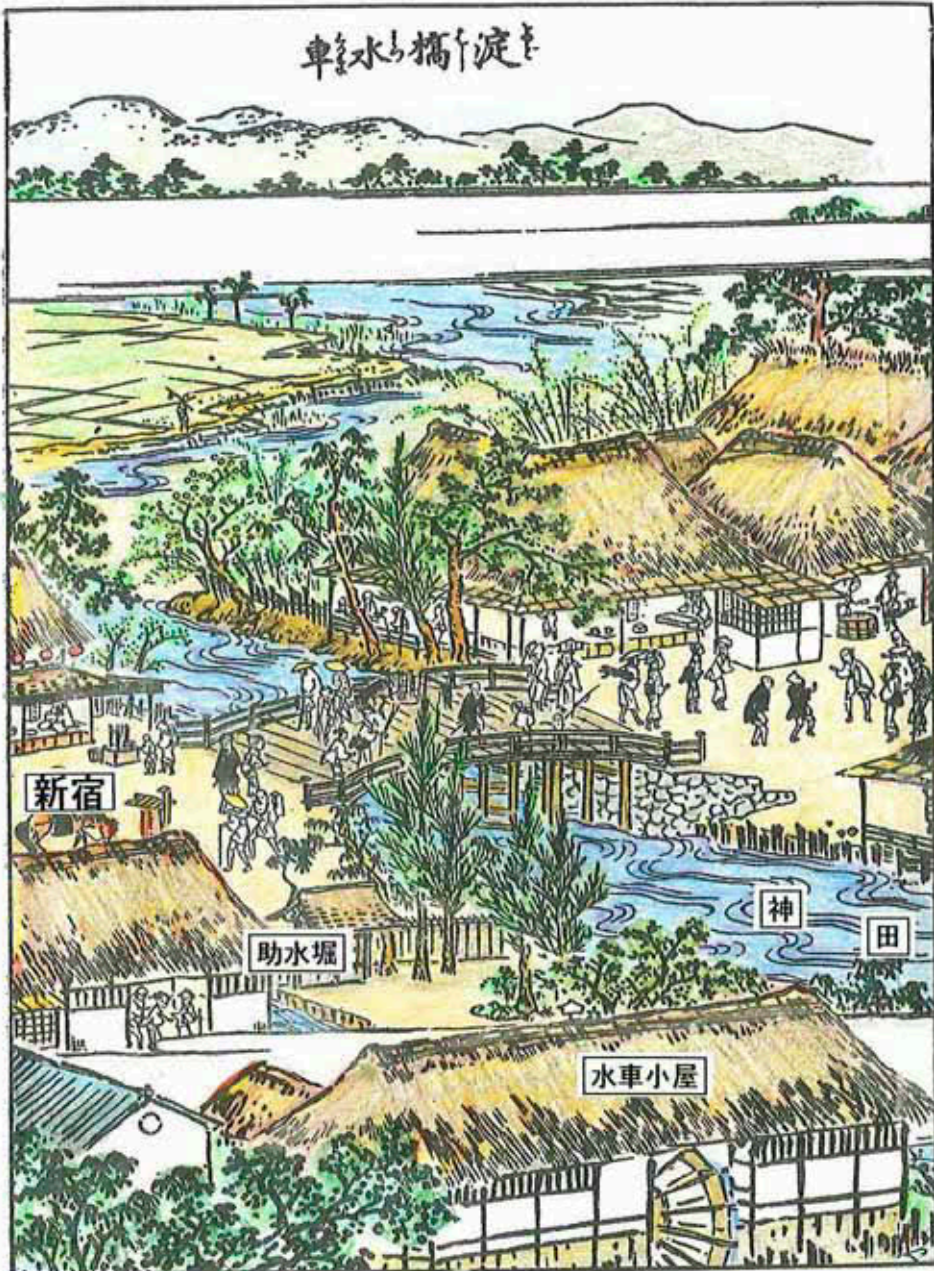


新宿

淀橋水車

《新宿区西新宿—中野区本町》

淀ばしは成子と中野との間にわたせり 大橋小橋ありて橋より此方に水車回転る故に山城の淀川に準へて淀橋と名付べき旨台命ありしより名とすといへり 大橋の下を流るゝは神田の上水堀なり



淀橋 成子宿と中野村との間に架す。大小二橋ありて、橋より此方に水車あり。昔大將軍家此地に御放鷹の頃、山城の淀に準擬へ、此橋を淀橋と唱ふべき旨上意あり。因て號とすといへり。

淀橋ハ成子と中野との間にわたせり大橋小橋ありて橋より此方に水車回転る故に山城の淀川に準へて淀橋と名付べき旨台命ありしより名とすといへり大橋の下を流るゝは神田の上水堀なり

Ⅱ 甲州道中の江戸の出入口Ⅱ



この碑は玉川上水の石樋を利用して昭和34年
近くの水道の碑と並んで建てられた。



『新宿区 史跡めぐり』



左が新宿御苑でここの交差点の中にあった。



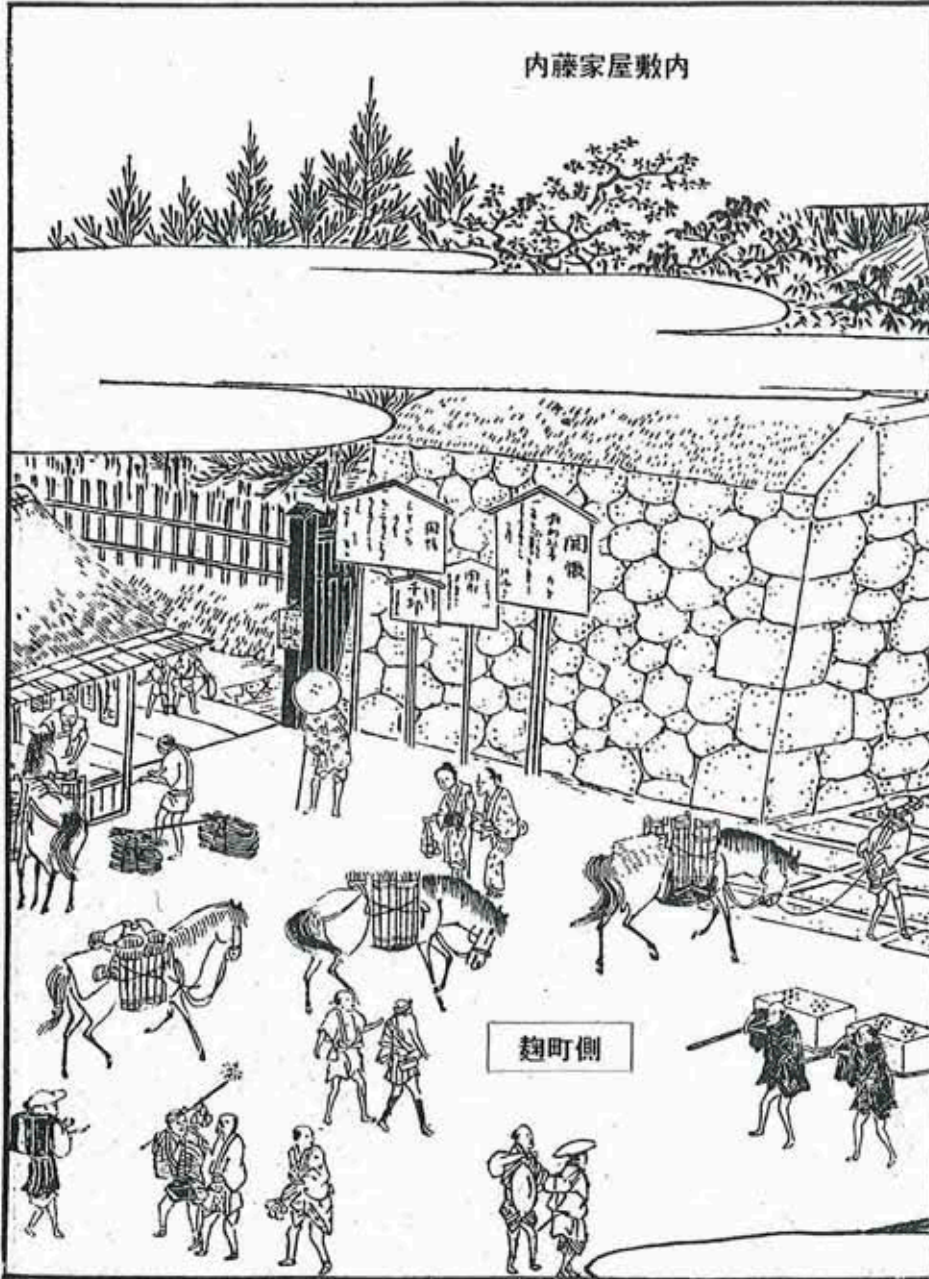
『新宿の散歩道』

四谷大木戸

右上は信州高遠藩内藤家の屋敷の門で下を玉川上水が流れている。左が麹町で下肥を運ぶ馬や駕籠の送り迎えなどの様子が描かれている。

元和2年(1616)設置され初めは門があったが、寛政4年(1792)門はなくなり、その後明治5年交通事情により撤去された。

内藤家屋敷内

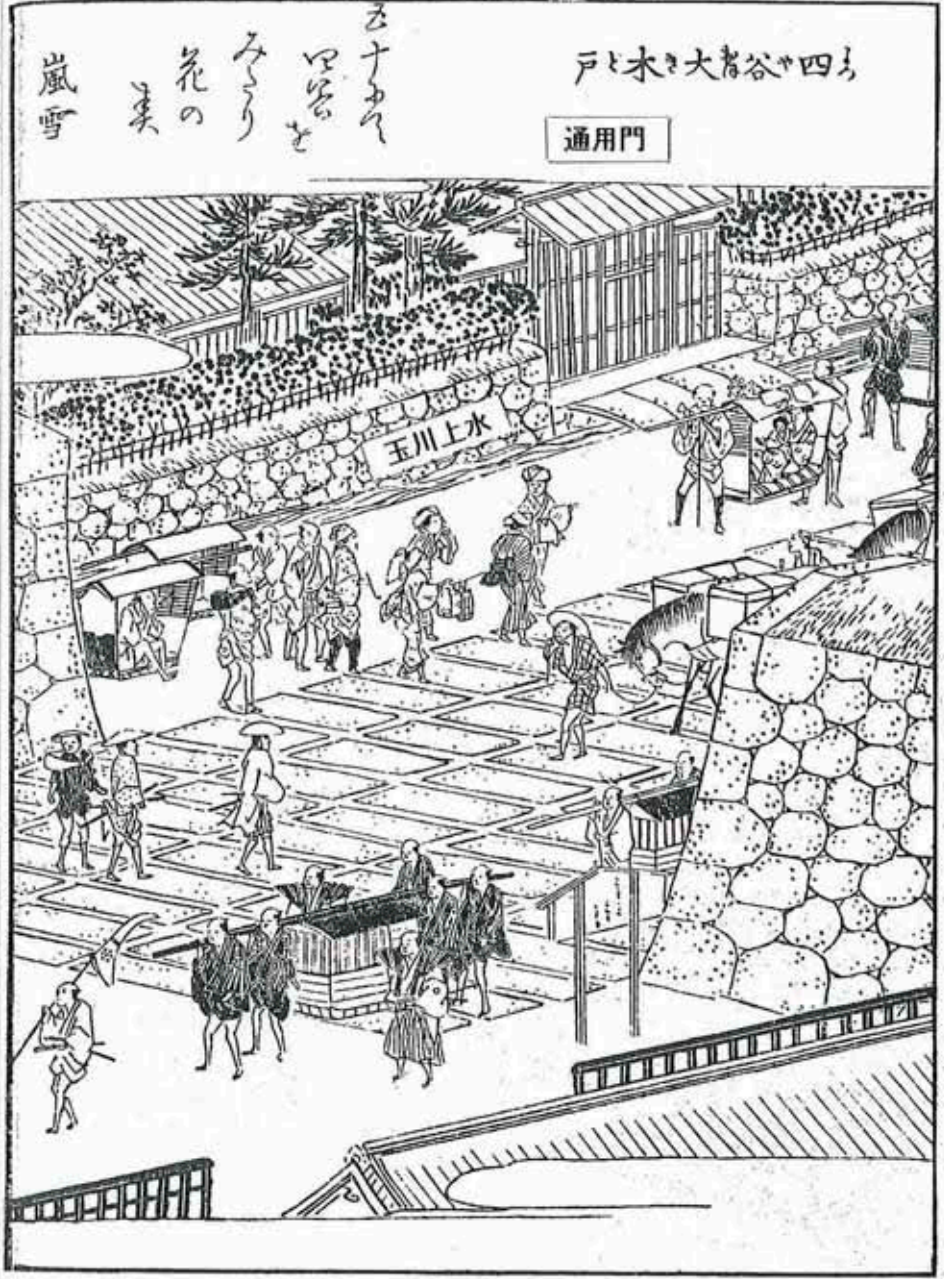


麹町側

四谷大木戸 又大關戸に作る。甲州及び青梅への街道なり。御入國の頃迄は、此地の左右は谷にて、一筋道なり。

戸と木大木谷や四

通用門



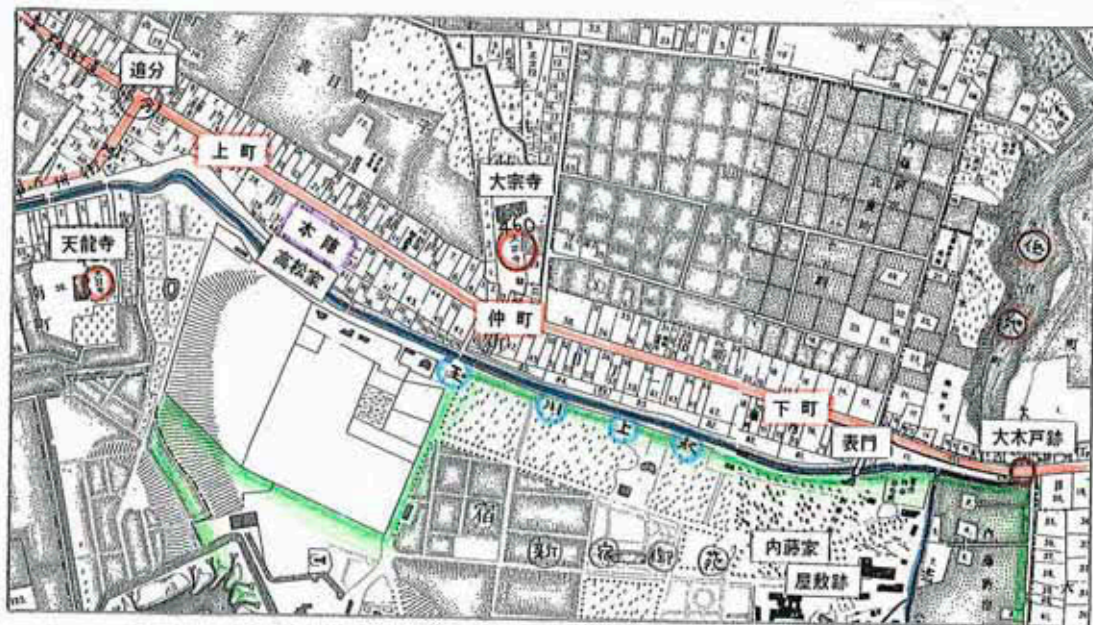
信州高遠藩内藤家の中(下)屋敷があった
 Ⅱ 甲州道中の最初の宿場Ⅱ



大木戸門から入った所に屋敷があり、その南側にこの庭園があった。今も池と庭が残っていて広さは18万坪もあった。元は天正18年(1590)家康から賜わった領地。



ここが内藤新宿の中心地で、右奥に内藤家の菩提寺の大宗寺がある。明治18年内藤新宿駅が出来てからは次第に中心地が今の駅の方へ移った。



明治20年頃の内藤新宿の様子で、宿の町割りがまだ残っている。

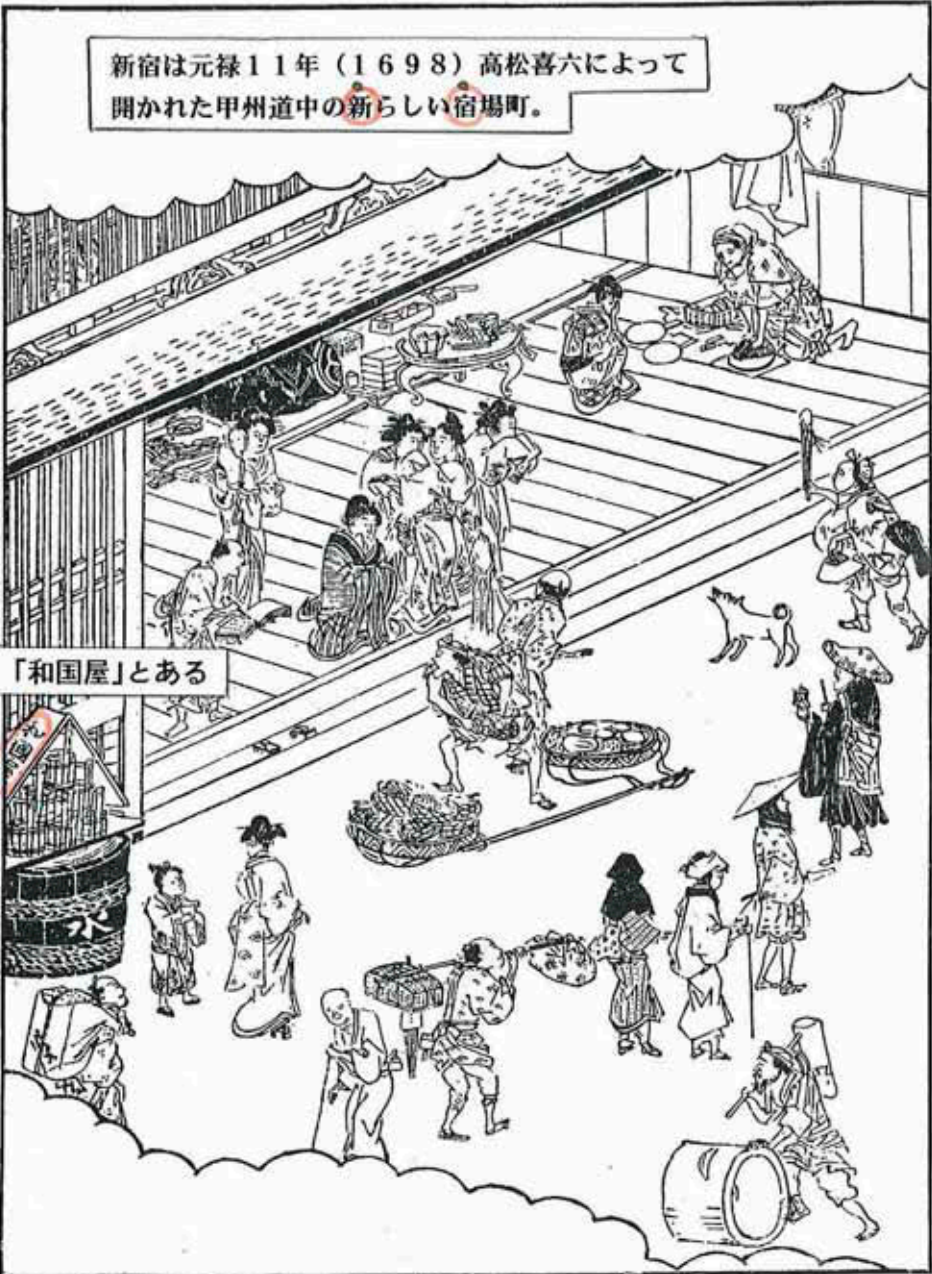


内藤新宿

宿内人口2377人・家数698軒・本陣1軒・旅籠24軒 『甲州道中宿村大概帳』天保14年(1843)

師走の宿場のにぎわいの様子で、右上では餅をついて
いる。左の店は「和国屋」という女郎屋の店先。

新宿は元禄11年(1698)高松喜六によって
開かれた甲州道中の新しい宿場町。



「和国屋」とある

内藤新宿 甲州街道の官驛なり。此地は舊内藤家の第宅の地なりしが、後町屋となる。故に名とす。日本橋より高井十迄の行程凡四里餘にして、人馬共に勞す。依て元禄の頃、此地の土人、官府に訴へて、新に驛舎を取り立つる。故に新宿の名有り。



四谷 内藤新宿
竹即季候の
多し季候の
来てはの
風を
師走を
師走かな
はせを
をを

味噌のおろし屋



万花園のあった所が今は「つつじの里児童公園」になっている。この公園しか名残が残っていない。



昭和の初期には万花園と日出園の2つがあった。

34

大久保の映山紅

新宿区百人町二丁目

新宿区の花「つつじ」のいわれの元になった所

新宿区の花「つつじ」

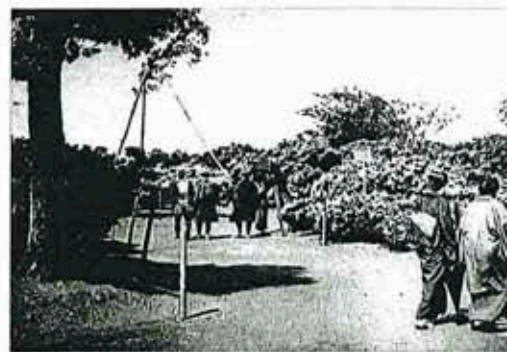


つつじ

新宿区では、大久保・百人町地域の公園に十数種類のつつじを植えるとともに、つつじの里児童遊園を開設するなど、かつての名所の面影を現代風に再現しています。

現在の大久保から百人町の辺りは、かつてつつじの名所でした。これは江戸時代の頃、百人町の地名の由来である百人組の武士達が、鉄砲撃ちの練習のかたわらでつつじを育てていたものが、やがて見物客で賑わうようになったのが始まりだったと言われています。幕末から明治維新の頃にかけて、つつじづくりは一時衰退したものの、その後、地元有志が保存運動を起こしてつつじの増殖に努め、つつじ園が7箇所も開設されるまでになりました。最盛期には花が70種類、数は1万株を超え、つつじ見物用の臨時電車が運転されるほどでした。大正から昭和の頃になると、鉄道や拡張や震災後の宅地開発等の影響によりつつじ園が廃止となる等、つつじの数は減り、一部の花は日比谷公園や館林市（群馬県）、箱根等に移されました。これらの「つつじ」とのかかわりから新宿区は昭和47年10月に区の花を「つつじ」としました。

お問い合わせ： 新宿区みどり土木部みどり公園課



明治時代のつつじ園（「東京風景」明治44年刊より）



新宿のつつじの名所で、お女中達がこれから花見をしようと準備している。

大久保の映山紅

きりしまつつじ

江戸時代に伊賀組の鉄砲百人同心の武士達がつつじを育てたのが始まり。最盛期には7ヶ所のつつじ園があったが、昭和初期に入ってからには衰えた。



大久保の映山紅ハ
弥生の末に盛るといふ
長丈餘のりの萩株
ありと其紅艶と愛
するの紫こゝ小群遊を
するの紫こゝ小群遊を
花形微妙とくくとも
叢り岡と枝葉と蔽ひ
さらば満庭紅と灌
う如く夕陽映して
錦繡の林試る討
此辺の壯観
なるべし



|| 神田川の螢の名所 ||



左が田島橋で右が高田馬場駅。「落合総図」の江戸名所図会の絵が説明板にのっている。

絵と同じ方向から撮った写真。高田馬場駅側から田島橋の方を見る。

ほたるの捕り方が色々あって面白い。



36 湯島聖堂

文京区湯島二丁目

江戸幕府の大学「昌平学問所」



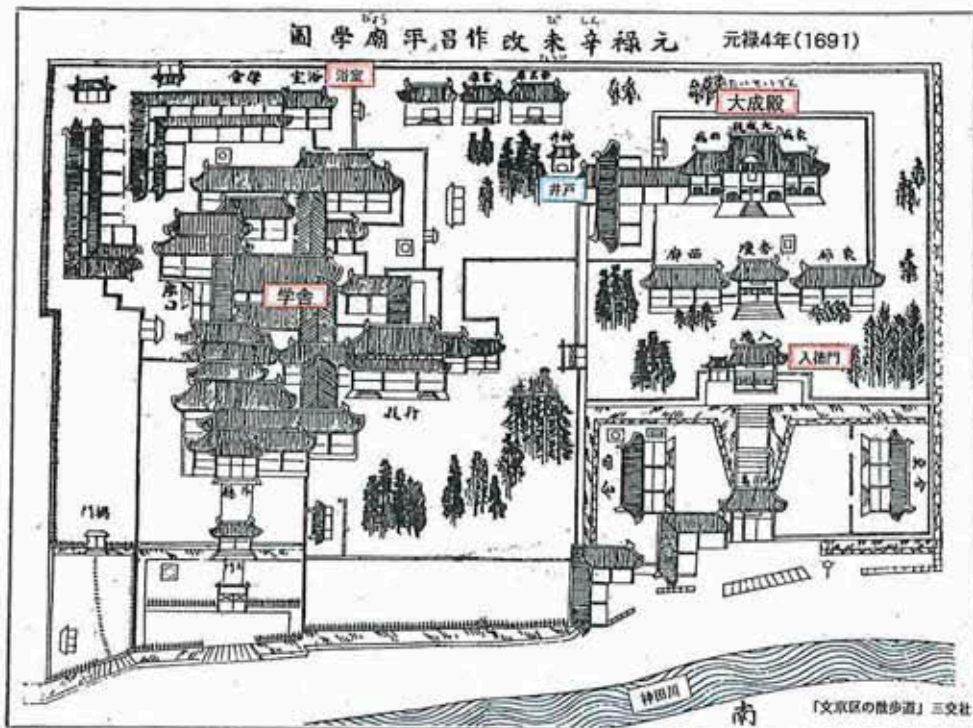
聖堂講釈図 東京大学史料編纂所蔵

孔子の儒学の教えを諸藩の藩士達に学ばせ、学問と教育の発展に力を尽くした。多くの学者を輩出した。

『文京の歴史風景』



絵と同じ方向から見た写真で左がお茶の水駅。



元禄4年(1691)の創建当時の平面図。



屋根の上にあるのは「鬼
狛頭」という火災と安全
を守る想像上の神魚で頭
から潮を吹いている。



『文京区史跡さんぽ地図』